

令和2年度 関西女子短期大学 卒業証書 学位記授与式 学長式辞（全文）

卒業生の皆さん、本日はご卒業、誠にありがとうございます。本学における2年間あるいは3年間の課程を、研鑽の甲斐あって無事終了され、本日ここに、ご卒業の良き日をお迎えになられたことを、心からお祝い申し上げます。同時に、ご家族の皆様におかれましても、これまで育てられた20年間の毎日を思い出されると、その喜びは言葉では表せないほどに大きく、すばらしいものと拝察いたします。また、ご来賓の皆様におかれましては、年度末のお忙しい時期に、本日のこの式典にご臨席を賜りまして、心からお礼を申し上げます。ありがとうございます。



卒業生の皆さん、今日、幸いにも卒業式を迎えることができました。令和2年度は、コロナ感染症のおかげで、4月からの2ヶ月間の自宅学習だけでなく、7月の学園内感染による対面授業の中断もあって、どうなるのかと心配しておりました。幸いにも、春学期は9月中旬に、秋学期も1月には終わり、今日の卒業式を迎えることができました。これは、ひとえに、学生・教職員の皆さんが、コロナ感染症に対して、正しく向き合い、立派に対応された結果であると思います。私は、これに対して深く感謝しております。ただ学長としては、この1年間、短期大学として、十分な教育を学生に施すことができたかということも自問しておりました。特に4月、5月に突然に実施せざるを得なかった自宅学習、パソコンに精通する教員からは、すぐに「対応できた」と聞くことができました。しかし多くの教員では、6月以降に行った対面授業で対応せざるを得ず、教員自身が満足できる授業にならなかったのではと感じています。ただ、秋学期は、当初から対面授業を実施し、十分な教育が施されたと思っています。学生の皆さんにとってこの1年は、大変な年であったと思いますが、教員にとってのこの1年も、学生の皆さんを卒業させるために、ありとあらゆる対応を考え、四六時中働きまわり、これ以上にはできないくらいに頑張った年であったということは、皆さんも知っておいてください。

さて、卒業生の皆さん、本学で過ごされた2年間あるいは3年間の学園生活は満足できるものであったでしょうか。Enjoy できたでしょうか。新しい制服に身を包んで、目を輝かせてこの講堂に集められた入学式の日のことを覚えておられるでしょうか。あの日皆さんは、専門職に就くという夢を実現するために必要な知識と技術だけでなく、それをさらに発展させる判断力や表現力を、この大学で身に付けたいと誓われました。その志を達成することができたでしょうか。専門職になるという夢はもう目の前にあります。私は、皆さんがこの大学に在籍中、専門職になるために、これまで経験をしたことがないほど勉学に励まれたことを知っています。しかし、あれほど勉学に励まれたあなた方でも、専門職として働いている内に仕事の壁にぶつかり、「自分は何もできない」と絶望感にとられる事があります。その時は、いつでも大学に戻って来て下さい。この関西女子短期大学が卒業生の皆様の母校であり、いつでも卒業生を喜んで迎えることを覚えておいて下さい。この専門職としての壁に何度も突き当たり、それを1つずつ克服して、初めて多くの人から敬われる専門職になれるのです。短期大学士になり、専門職の資格を得たという現状に満足せず、常に精進していただきたいと思います。

ところで、この2年間あるいは3年間に共に過ごされた同級生に、ベストフレンドはできたでしょうか。卒業後の生活においては、職業に関連する多くの困難や障害に遭遇します。その時に、同じ職業に就いている親しい同級生の存在は、本当に頼りになります。同級生の友達を大切にして下さい。

最後になりましたが、今日のこの卒業式に出席された卒業生と、そのご家族、来賓と教員の皆さんの健康と、ますますのご発展を祈念して、私の式辞とさせていただきます。

令和3年3月18日

関西女子短期大学 学長 大嶋 隆